

13 「与良川総合排水機場」と治水対策

〈与良川総合排水機場の役割〉

与良川周辺の農地やその上流の農地の水は通常時は排水路へ流れ込み、その排水路の水は与良川へと集まり、最終的には渡良瀬遊水地へ自然排水されます。しかし、大雨が降り渡良瀬遊水地に溜まった水の水位が上がってしまうと与良川の水を排水することが出来なくなってしまいます。そのため、大雨時に、与良川へ集まってきた水を渡良瀬遊水地に排水ポンプによって強制的に排水する役目を果たすのが与良川排水機場です。2015(平成27)年9月の「関東・東北豪雨」や2019(令和元)年10月の「令和元年東日本台風(台風19号)」の際には、下生井地区を水害から守りました。



〈与良川排水機場の歴史〉

1930(昭和5)年に旧第1排水機場、1949(昭和24)年に旧第2排水機場、その後1969(昭和44)年に新第1排水機場、1978(昭和53)年に新第2排水機場が建設されましたが、老朽化が進んだことから、国営かんがい事業の一環として2019(令和元)年10月から新しい排水機場の建設工事が始まり、2024(令和6)年3月に竣工しました。



完成した総合排水機場



建設工事の様子〔2021年6月12日撮影〕



旧排水機場で使用されたポンプ(第1排水機場内)



台風時の排水機場〔2019年10月13日撮影〕



東側から、第1(左奥)、第2(手前)、総合(右奥)
〔2023年9月10日撮影〕



西側から、総合(左奥)、第1(手前)、第2(右奥)
〔2023年2月10日撮影〕